

## 2023 年第 2 回 Japan Council 理事会議事録(案)

日 時：2023 年 7 月 21 日（金）

場 所：岐阜県下呂温泉小川屋（名古屋支部）

出席者：出席者：宮永 Chair、原崎 Vice Chair、奥村 Secretary、樋口 Treasurer、五十嵐札幌支部 Chair、山田 仙台支部 Chair、佐藤 信越支部 Past Chair、相澤 東京支部 Chair、永島東京支部 WIE Vice Chair、佐藤 名古屋支部 Chair、梶川 関西支部 Chair、井上 関西支部 Vice Chair、丹治 四国支部 Chair、亀田 広島支部 Vice Chair、早見 福岡支部 Secretary、高村 COC Chair、小澤 SAC Chair、南 ARC Chair、橋本 Past Chair、重松 Past Secretary、前原 Past Treasurer、井上 WIE Coordinator、福田 IEEE Past President、鈴木 IEEE Industry Engagement Committee Member、杉江 IEEE Admission and Advancement (A&A) Committee Member、西原 IEEE Region 10 Past Director、杉山 IEEE Fellow Committee Member、大野 JC-SAC past Chair、久本 LRSC 理事、矢野 2023 R10 Humanitarian Technology Activities Committee Chair、杉山 IEEE Fellow Committee Member

オブザーバ参加：河口名古屋支部 Secretary、浮田名古屋支部 Award Chair、野々目名古屋支部 Technical Activity Chair、山本名古屋支部 Student Activity Chair、森田名古屋支部 YP Chair

事務局：加藤氏          幹事会社：金

### 【議題】

1. 前回理事会議事録の確認（審議）
2. 2023 年度中間会計報告および予算修正（予算修正のみ審議）
3. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告
  - 3-1 Chapter Operations Committee
  - 3-2 Student Activities Committee
  - 3-3 Awards Committee
  - 3-4 Industry Promotion Committee
4. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告
  - 4-1 Long Range Strategy Committee
  - 4-2 History Committee
  - 4-3 Awards and Recognition Committee
5. 各支部 2023 年前回理事会以降の活動報告
  - 5-1 札幌支部
  - 5-2 仙台支部
  - 5-3 信越支部

- 5-4 東京支部
  - 5-5 関西支部
  - 5-6 四国支部
  - 5-7 広島支部
  - 5-8 福岡支部
  - 6. 名古屋支部の最近の活動ご紹介
  - 7. Coordinator 前回理事会以降の活動報告
    - 7-1 Membership Development
    - 7-2 Young Professionals
    - 7-3 Life Members
    - 7-4 Educational Activities
    - 7-5 Women in Engineering
  - 8. その他
    - 8-1 R10 SYWL Congress 2024 の日本招致について(審議)
    - 8-2 Ad-Hoc 委員会の新設について  
(Fellow Elevation Support, Promotion Committee) (審議)
    - 8-3 IEEE Senior Member Elevation について (報告)
    - 8-4 マンガプロジェクトの海外展開について
    - 8-5 IEEE 本部 MGA での Award 確認について (審議)
    - 8-6 インボイス制度への対応について (報告)
    - 8-7 Section Congress2023 参加支援について (報告)
- [参考] IEEE Japan Council メール審議記録
- [参考] Region 10 からのメール連絡一覧

## 挨拶

奥村 Secretary より、R10 からの 2 名のスペシャルゲスト R10 Director の CHUN CHE (LANCE) FUNG さんと、Past Director DEEPAK MATHUR さんの紹介があり、お二人より挨拶があった。また、宮永 Chair より挨拶が述べられた。

## 【議事】

### 1. 前回理事会議事録の確認【審議】

資料 (1)

奥村 Secretary より前回理事会の議事録について説明があり、審議・承認された。

### 2. 2023 年度中間会計報告および予算修正 (予算修正のみ審議)

資料 (2)

樋口 Treasurer より中間会計の報告があった。

Section Assessment は 7 月上旬から各 Section で処理をしており、レートは 135 円で見積も

っているが、収入増になる模様である。一方で支出については、広告の一環でシニアメンバーのメダル制作、SB の SBLTW (Student Branch Leadership Training Workshop) の費用執行があった。2023 年予算の修正について、11 月に予定されている SYWL で、毎年学生 5 名ほどの旅費を支援するため SB 支援費が当初より増額となった。  
小澤 SAC Chair から予算申請に関する説明があり、予算について審議・承認された。

### 3. 常設委員会 前回理事会以降の活動報告

#### 3-1 Chapter Operations Committee

資料 (3-1)

高村 COC Chair より報告があった。

COC の第 1 回ミーティングを 5/31 にハイブリッドで開催し、85 名が参加した。Chapter 支援費の申請額は予算見立てに対して 91%となる。2023 年の Award 登録数は 54 件で、昨年は 49 件だった。2022 年から Kintone の運用が順調で、Chapter 役員向けにシステムの使い方の説明を実施する予定である。今後は、支援費審査の東京 Section の部分を東京支援費で行ってもらう予定で移行の作業をしている。JC EA グループに COC Chair がリエゾンとして参加し、Chapter 共同によるウェビナー企画の検討している。

#### 3-2 Student Activities Committee

資料 (3-2)

小澤 SAC Chair より報告があった。

Outstanding Student Branch Counselor Award は今年度から始まった Award で、受賞者 2 名を決定した。また、IEEE のマンガストーリーコンテスト 2023 の公募を開始した。SBLTW 2023 を 6/30 と 7/1 に関西大学で開催し、参加者は 66 名、うち学生 48 名、34 SB のうち、18 SB が参加、社会人は 18 名。また、川崎 IPC Chair に依頼し、学生向けの企業パンフレットを配布した。そして SBLTW に際し、SB カウンセラーミーティングを開催した。出席者は対面 9 名、オンライン 6 名合計 15 名。SSR(Section Student Representative)の選出と報告が R10 SAC から求められているので、各 Section でご検討の上、選出して頂きたい。

質疑応答では、予算の申請について審議・承認された。

#### 3-3 Awards Committee

資料 (3-3)

浅井 AC Chair の代理の代理で奥村 Secretary より報告があった。

メンバーの増減が見られないのが現状で、フェローについては 2020 年を境に少し回復しているように見えるが、依然として低いレベルではある。後ほど、フェローを増やすための委員会を立ち上げ、浅井 AC Chair に入ってもらえる予定だ。他の Award についても、日本の大きな賞との連携についても、検討していきたい。

質疑応答では、AC としての成果に関するさらなる検討の必要性や AC 委員会の方々からの

Award の推薦についてコメントがあり、奥村 Secretary が浅井 AC Chair にコメントを伝えることとなった。

### **3-4 Industry Promotion Committee**

原崎 IPC Chair より報告があった。

通常は Chapter で開催すべき DL 関連の講演会だが、内容が防衛関連であることが原因で Industry での運営となり、4/19 に IEEE AESS Distinguished Lecturer , Dr. Karen Haigh の講演会を開催した。現地参加者 40 名、オンライン 100 数十名の参加者となった。企業がやった方がよい場合などでは、IPC がこのような形でサポートすることも可能である。

IPC 委員会では、JO 梶川さんより新しいサービスの紹介、LRSC の報告、SBLTW へのパンフレット配布状況確認、MAW2023 の情報共有等、社会人の Dr.取得についてのアンケート仕様検討などが議論された。第 3 回 IPC 委員会は 11/10 で開催予定だが、企業へのリーチを望まれる案件があれば、開催 1 か月前までに連絡を頂ければと思う。

## **4. Ad-Hoc 委員会 前回理事会以降の活動報告**

### **4-1 Long Range Strategy Committee**

資料 (4-1)

原崎 LRSC Chair(兼 Vice Chair)より報告があった。

将来の会費収入減少の対応策について、JC COC と各 Chapter を奨励し、5/19 に Chapter 向けの会員増施策の提案をし、理解を得た。JC COC の会合で LRSC から会員推移などについて説明し、各 Chapter Chair に現状を理解し、活動を活性化するように依頼した。また、DL 講演会や国際会議の日本国内開催を通じて Society や Chapter のアピールをする等の報告をした。第 2 回 LRSC ミーティングでは、宮永先生の高等教育の現状の報告を頂き、IEEE の DL 講演会を大学と共同開催することなどを議論した。各 Society の DL の依頼方法などの情報をまとめ、JC COC や各 Section Chair と共有したいと思っている。

### **4-2 History Committee**

資料 (4-2)

白川 Chair の代理として奥村 Secretary より報告があった。

HC は Milestone 関連の申請を中心に行っている。現在、自動炊飯器の商業化やセルラーシステムの奥村カーブ、パルスオキシメーター、面発光レーザーなど、数多くの申請を行っている。

### **4-3 Awards and Recognition Committee**

資料 (4-3)

南 Chair より報告があった。

顕著な活動をされた方を Japan Council Outstanding Volunteer Award として贈呈したい。昨年は Nomination が 1 件、受賞 0 件だった。顕著な貢献として、JC の活動における有効な活動、他の Section や国内全体に大きなインパクトを与えた Section の活動としたい。7 月末く

らいまでに承認し、8月頭に Call For Nomination を出したいと考えている。この賞は MGA の承認を得ていないものとなるため、後ほどある MGA の議題で議論させてもらいたい。Nomination の活発化を目指し、お手本を示す意味で、JC 理事会メンバーに過去を振り返り、推薦して頂きたい。

上記内容について審議・承認された。

## 5. 各支部 2023 年前回理事会以降の活動報告

### 5-1 札幌支部

資料 (5-1)

五十嵐札幌支部 Chair より報告があった。

共催事業についてだが、例年、電気情報関係学会と支部大会の共催をしており、10月末に函館大学で開催予定である。この際、札幌 Section の 25 周年の記念講演会を開催する。若手の准教授クラスの講演者 4 名に 25 年後を見据えた講演とディスカッションを予定している。

### 5-2 仙台支部

資料 (5-2)

山田仙台支部 Chair より報告があった。

4 月にハイブリッドで年次総会開催した。9 月に電子関係学会東北支部連合大会で 25 周年記念講演、11/28 に 25 周年記念シンポジウムを開催する予定である。他には記念誌発行も予定している。10 月には Milestone の受賞記念式典を開催する方向で進めている。

### 5-3 信越支部

資料 (5-3)

湯川 Chair 代理として、佐藤信越支部 Past Chair より説明があった。

IEEE セッションは通信学会、電気学会、各 Section との共催で今後秋に開催予定である。SB のポスターセッションは一昨年から単独開催で 12 月に開催を予定している。信越 Section の唯一の Chapter である MAG-33 では、5 月にスペインから講師を招き、DL 講演会を開催した。MAW 2023 は Section や IPC でも検討を行った。本日をもって承認頂きたい。開催日は 11/25 で、場所は信州大学国際科学イノベーションセンターの予定である。テーマは航空宇宙産業における産学連携を設定している。主催は信州大学、共催で信越 Section という形でお願したい。MAW については、JC から予算を見積もっており、講演頂く方々の旅費・謝礼や交流会の補助に充てるなどを考えている。

### 5-4 東京支部

資料 (5-4)

相澤東京支部 Chair より報告があった。

4 役会議を月に 1 回開催しており、最近は各 Committee から Chair に参加頂き、各種情報を共有している。理事会の場所は幹事会社だけでなく、他の会社の会議室を借りて、次回は株式会社サイバーエージェントの会議室で開催する予定である。Fellow Nomination については、

国内の電子情報通信学会とも協力し、会員増強のための活動を模索している。Committee 関連では、トロンのリアルタイム OS の件で Milestone の授与が決まり、10 月にイベントを開催する方向で進めている。また、R10 の HTC2025 を千葉商科大学で開催する予定となっている。それに向けて、インドで開催される HTC2023 に SIGHT から人を派遣しようと思っている。

#### 5-5 関西支部

資料 (5-5)

梶川関西支部 Chair より報告があった。

今後開催する事項の中で、この場で披露すべきこととしては、9/2 に 25 周年の記念講演会を開催ということである。講演会の内容は前回の理事会でもお話しているが、宮永先生他数名の先生に依頼している。ぜひこの場の皆さまにもご参加頂きたい。

#### 5-6 四国支部

資料 (5-6)

丹治四国支部 Chair より報告があった。

25 周年記念行事は 30 周年で開催したいと考えていたが、CAS の唯一の Chapter があり相談したところ、総会前に 25 周年記念の講演会を開催することとなった。その他、講演会開催も検討していたが、なかなか講演者がみつからないため、学生会員が増えるような企画を検討中である。また、国際会議発表をしたらインセンティブを付与するなど、会員になってもらうような企画を総会で提案してみようと考えている。

#### 5-7 広島支部

資料 (5-7)

亀田広島支部 Vice Chair より報告があった。

学生シンポジウム HISS を毎年開催しているが、今年は 11/25,26 に対面で開催する予定である。そのための実行委員会をつくり、学生を中心に運営している。1 回目の理事会は 4/15 に開催し、活動計画と予算案の承認や Committee Chair の選出、HISS の日程決定、25 周年記念行事準備状況確認を行った。2 回目の理事会は HISS の実行委員会と同日開催し、HISS の期間内に 25 周年記念行事を行うことが承認された。

#### 5-8 福岡支部

資料 (5-8)

伊良皆 Chair の代理で早見福岡支部 Secretary より報告があった。

25 周年記念行事を 9/8 に崇城大学で電気・情報関係学会九州支部連合大会と併設して実施する予定である。そこで記念講演を 2 件、若手研究者講演を 4 件開催する。記念講演の講演者は、Section の初代 Chair である九州大学名誉教授・牛島先生と九州工業大学前学長の堀先生にお越しいただく方向で検討している。若手研究者の講演は、WIE 四国・広島・福岡 Chapter、YP 広島・四国・福岡 Chapter との共催で 4 名の方に講演頂こうと思っている。福岡 Section は LMAG 設立を求められているが、25 周年記念行事を機に、組織化を検討している。

## 6. 名古屋支部の最近の活動ご紹介

資料 (6)

佐藤名古屋支部 Chair より報告があった。

Section Chair はこのような会議に参加し、JC についても学ばせて頂くが、Section 全体には中々伝わらない。本日は若手に参加してもらい、Section について報告しつつ、JC についても学んでもらいたいと思っている。名古屋 Section Secretary の川口先生より全体活動紹介、名古屋 Section Award Chair の浮田先生から受賞活動、名古屋 Section TA Chair の野々目さんから Milestone について、名古屋 Section SA Chair の山本先生には学生支援について、名古屋 Section YP Chair の森田先生には YP 活動について説明して頂く。続いて、各担当の報告があった。

## 7. Coordinator 前回理事会以降の活動報告

### 7-1 Membership Development

資料 (7-1)

廣岡 MD Coordinator の代理として奥村 Secretary から報告があった。

各 Section の情報を共有化した。議事録に添付されているが、シニアメダルの授与と管理、申請サポートに関する意見交換を行った。シニア昇格に注力しているとの報告。関西 Section ではシニア申請者に 3 役が推薦者を紹介するなど、積極的に活動されていることが紹介され、各 Section でも前向きに取り組みたいとシニア増強への取り組みが共有化されたとのこと。

### 7-2 Young Professionals

資料 (7-2)

塩見 YP Coordinator の代理として奥村 Secretary から報告があった。

YP の報告としては、4/22 に名古屋で IEEE Japan YP study lab 2023 in Nagoya を開催し、東京 Section の活動をより広く各 Section に広げた。内容は Raspberry pi、Overleaf の勉強会を全 Section に呼び掛けて行った。アンケートも行い、好評だったと聞いている。アンケート結果については次回に報告がある予定。これからも継続して頂きたい。

### 7-3 Life Members

資料 (7-3)

津田 LM Coordinator の代理として奥村 Secretary から報告があった。

LMAG については、5/9 に会議を開催した。また、MAW に向けた準備会合も開催した。更に福岡 Section の LMAG 立ち上げへの協力などの報告があった。

### 7-4 Educational Activities

資料 (7-4)

大越 EA Coordinator の代理として大野 JC-SAC Past Chair から報告があった。

各 Section の EA との情報共有ミーティングを 7/7 に開催した。メインの活動は Engineer Spotlight で、2 か月に 1 回のペースで開催する。2023 年第 1 回目は JC Chair 宮永先生に依頼し、5/9 に開催し 115 名の参加者があった。次回は 8/25 に加茂文吉様に講演依頼をしている。準備中であるが 8/29 に東京都立大学の相原健郎先生を講師に、観光客などの行動分析に関連したテーマで講演会を開催予定。これは毎年恒例になっているが、私が関与していることから、

ITS Society との共催となっている。本来はこのような提案が各 Chapter からあるとよい。

## 7-5 Women in Engineering

資料 (7-5)

井上 WIE Coordinator より報告があった。

今年 WIE Coordinator のページを WEB サイト上に作成した。JC の HP の活動紹介に WIE があったが、そこを WIE Coordinator の場所とし、各 Section の WIE にもリンクを貼った。Coordinator の活動としては、関西大学で SB の SBLTW に参加させて頂いた。今後の活動は 11/24 開催予定の SYWL の実行委員会に関わり、準備中。仙台 WIE で 8 月、11 月にイベント開催予定で、東京・信越では Annual Symposium を企画しており 12/2 に日程決定、関西 WIE では、10 周年記念で 10/21 に立命館茨木キャンパスで開催予定。性別、年齢に偏りなく参加頂ける機会を提供していることを若い学生、女子学生に知ってもらい、ネットワークを作りたいと考えている。WIE の活動は男性も参加頂ける。

質疑応答では、SYWL や MAW の開催や運営の仕方、今後の担当 Section について議論があり、奥村 Secretary からは LRSC で引き続き議論したいというコメントがあった。

## 8. その他

### 8-1 R10 SYWL Congress 2024 の日本招致について(審議)

資料 (8-1)

原崎 Vice Chair より報告があった。

開催日は 2024 年 8 月 29 日～9 月 1 日で、会場は東京の国立オリンピック記念青少年センターである。JC と 9 つの Section のジョイントで提案したい。Local Organizing Committee を作る必要があり、宮永 Chair に General Chair を依頼し、Committee のリスト作成している。ここでも過去 3 年間にどれだけの SYWL 関連活動をしたかの報告が必要で、昨年徳島で開催した SYWL+I や、その前に札幌で開催した、MAW と SYWL の併催をアピールしている。全ての予算は Local Organizing Committee が責任を持つイベントである。現在 \$ 1 = 140 円だが、安全のために予算は \$ 1 = 125 円で算出している。\$ 1 = 125 円であれば \$300、\$ 1 = 140 円であれば \$270 にしてもよいという予算案となっている。ただし、費用面の理由により、海外から 100 名以上、全体で 250 名の参加者を集める必要がある。また、次回の JC 理事会 (12 月開催予定) で、各 Section の SB、YP、WIE の方々を東京に 4 日間、10 名程割り当てるよう、お願いする形になる。

上記について審議され、承認された。

### 8-2 Ad-Hoc 委員会の新設について (Fellow Elevation Support) (審議)

資料 (8-2)

高村 COC Chair より報告があった。

JC Fellow Elevation Support, Promotion Committee の設立の承認を図って頂きたい。この度組織を作り、IEEE Fellow を目指す方々のためのウェビナーを実行していくという母体にした。また、Elevation をサポートするという意味で、フェロー制度のページのメンテナンスもミッションの一つ。また、Nomination Form の事前査閲フローを確立し、それをアーカイブすることで将来の Applicant に見せるという正のスパイラルを作りたい。他のミッションとしては、Industry からの Fellow Nomination を増やしたい。

上記について審議され、承認された。

#### **(Promotion Committee) (審議)**

大野 Past JC SAC Chair より報告があった。

昨年 JC の SNS として、Twitter と Instagram の開設を行った。若い方に合った告知方法により新しい会員獲得を目指したいのが趣旨である。運用方針としては、学生 2 名をボランティアベースではあるが、少し Honorarium を支払い、可能であれば週 1 の頻度の更新で運営したい。雇用契約も考えたが、それは IEEE の規則に反する。この方針については本部の梶川さんも含めて相談した。SNS の運用にあたり、私と Secretary にもメールチェックをお願いし、運営していく。今後の方針としては、JO でも 6 月に Twitter が開設されたが、そちらとの連携も考えている。ただ、Twitter の「いいね」やリツイートに関しては議論が必要と考えている。このような Ad-Hoc Committee の設立を提案したい。

質疑応答では、謝礼やボランティアベースについて議論があり、謝礼部分の記載は大野 Past JC SAC Chair が修正し、4 役が責任をもって確認し、承認することで審議・承認された。

#### **8-3 IEEE Senior Member Elevation について (報告)**

資料 (8-3)

杉江 IEEE Admission and Advancement (A&A) Committee Member より報告があった。

Senior Member への昇格は IEEE 全体で 2 %ほどの数値で、年間約 4000 人を超える。R10 の場合、Senior Member に昇格するのは 2000 人前後である。JC は今年 100 人弱が昇格されると予想している。主な施策としては、Region、Council Section とともにプロモーションを行うことだ。Senior Member の申請の仕方については HP に記載されている。Senior Member の資格としては、10 年の業務経験や 5 年の顕著な成果などがある。申請する分野によって必要とされる情報、評価する観点が異なるので、確認頂きたい。申請にあたっての留意点だが、履歴書、業績リストの添付は任意となっているが、可能であれば付ける方が良い。

#### **8-4 マングプロジェクトの海外展開について**

資料 (8-4)

西原 IEEE Region 10 Past Director より報告があった。

JC SAC で昨年、一昨年と Manga Project でそれぞれ 3 作品ずつ、6 作品が日本語版、英語版

で出版されている。海外でも評価されており、世界の IEEE でも進めることとなった。New Initiative Committee で Funding に応募し今年 Fund を得られることになり、日本の Manga Project と協力して進めている。今回募集をしたところ、応募が 43 件あり、日本側で 10 作品を選定した。IEEE 側に返したところ、アメリカ側で 6 作品が選ばれた。現在は日本の Manga をこれまで出版してきた、Maruzen 雄松堂と大日本印刷、プロ作家の協力を得て、制作を進めている。7, 8, 9 月で完成予定。

#### 8-5 IEEE 本部 MGA での Award 確認について（審議）

資料（8-5）

奥村 Secretary より説明があった。

MGA は改めてその傘下の全ての Award について、新しく表彰を作る場合と、既存の表彰を改訂する場合に、MGA の事前承認を厳格に求めるようになった。これにちなみ、今後の JC の方針を決めたい。2022 年 11 月以降、新設されたものについては、この指示に従うことになる。その前については、承認されたと認識することによいか、という点も審議したい。

質疑応答では、本件について審議され、賛成多数で承認された。

#### 8-6 インボイス制度への対応について（報告）

資料（8-6）

奥村 Secretary より報告があった。

2023 年 10 月からインボイス制度が開始される。JC 及び OU の対応について監査法人と樋口 Treasure、事務局加藤さんとともに打合せをし、申請しないことになった。JC および、各 Section、Chapter などの組織は、日本国内では法人格の無い非営利の任意団体の扱いであるため、JC と各 Section やその他関連の各 OU はあくまでも別組織の扱いとなるため、今回の判断や添付フローチャートを参考にして、必要に応じて各自の判断で進めて頂きたいというのが監査法人からの指示があった。

#### 8-7 Section Congress2023 参加支援について（報告）

資料（8-7）

奥村 Secretary より報告があった。

東京 Section から 1 名、Section Congress 2023 に参加することで承認された。JC 枠からは申請者がなかった。

#### <その他>

Society に関する選挙について議論があった。日本から立候補している方がおり、投票をお願いするためにも日本から立候補している方の情報をまとめる必要があるとのコメントがあった。本件については高村 COC Chair にとりまとめをお願いすることになった。

また、R10 Director の CHUN CHE (LANCE) FUNG さんと、Past Director DEEPAK MATHUR から R10 の最近の活動に関する紹介があった。